

天文学用語審議報告

広瀬 秀 雄*

文部省大学学術局情報図書館課内の学術審議会学術用語分科会は去る8月11日に第4回運営委員会を開いて、学術用語(天文学他6専門分野)の制定・普及について、分科会長より学術審議会長に大臣への答申を依頼し、あわせてその実務措置についても依頼することになった。これによって長い間待機を余儀なくされていた天文学用語集が日本天文学会ので承のもとに、近く出版されるはずである。そこでこの際一応現在に至るまでの経過を報告しておきたい。

◇ ◇ ◇

昭和31年9月29日 天文学の専門分野での学術用語制定のため、学術奨励審議会学術用語分科審議会に天文学用語専門部会が設置されることになり、その打ち合わせ会が開催された。

昭和31年11月1日 日本天文学会から推薦された13名に対して、学術奨励審議会委員および専門委員の発令があった。この天文学用語専門部会の委員構成は下記のとおりであった。

主査(委員) 広瀬秀雄 幹事 竹内端夫
専門委員 一柳寿一、鑄木政岐、塚本裕四郎、虎尾正久、長沢進午、畑中武夫、服部忠彦、藤田良雄、古畑正秋、宮本正太郎、藪内 清。

昭和32年6月 日本天文学会編「天文術語集」(1952)を基盤とし、各種文献によって関係用語の採録を行ない、「天文学用語採録集」(AS-1, 4493語)をまとめ、これを関係諸機関等に配布して意見を求めた。

昭和34年1月 回答された意見により作られた採録集補正版(AS-2, 4483語)を同様に関係機関等に送付し、意見を求めた。

昭和34年5月17日 日本天文学会年会の機会に、上京された地方在住専門委員の参加を得て、第3回専門部会を開催し、AS-2を回答意見によって改訂し、全用語の選定を終了した。

昭和35年10月 天文学用語選定原案(AS-3, 2206語)の不備是正の上、前回同様関係機関等に送付して、決定版のための意見を求めた。

昭和42年1月 他部門の関連用語の総合調整に備えて選定原案補正版(AS-4, 2486語)を専門部会構成員に配布した。

昭和42年6月1日 学術審議会令(政令117号)が施行され、従来の学術奨励審議会学術用語分科会は解消し、新設の学術審議会学術用語分科会がその分担事項を継承した。天文学用語専門委員は一応その任務を終了したと見なされ、再任されなかった。そこで新用語分科会には、前分科会の主査と幹事が残留し、他分野との総合調整に従い、今日に至った。その間創業以来幹事として尽力された竹内端夫氏は都合により辞任されたので、堀源一郎氏が幹事に任命された。

◇ ◇ ◇

わたしたちは天文用語制定が急務であることの認識に立って、敏速に行動したのではあったが、創業当初より数えて16年が経過してしまっただけで、途中に約6年の空白があるが、その上調整が軌道に乗ってからも5年以上が経過した。したがって今回目の目を見る用語集は、出版と同時に改訂版の作業にとりかからなくてはならない運命を担っている。それでもこれが次の時代に対する捨石として役立つなら、この事業に尽力された専門委員の方にも主査の不手ぎわをおゆるし下さるであろうと考えている。また事業が文部省内の事情によって左右され、その帰趨がつかみにくかったため、本会会員諸氏に十分な情報を呈示しなかったことを深くおわびしておきたい。

* 埼玉大学